

エンパワーするNGO



コロナ禍の分室～やっぱりつながりたい



ちいきにひろがれ ぶくしのわ

わいわい通信

Vol.30

2021.3

神戸YWCA 地域福祉部ニュースレター



もくじ

活動紹介・ボランティア募集中！	4
グループ近況報告	6
被災者支援プロジェクトからの報告	14
ありがとうございました！	15



「地域福祉部」は「総合サポートセンター」へ

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、神戸YWCAでは9つのボランティアグループが生まれました。神戸YWCA地域福祉部は、それらのグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～一人ひとりが存在そのものを大切にされる地域社会づくり～を実現するために活動してきましたが、2021年度より新組織への改編がおこなわれ、分室で活動するボランティアグループは、「総合サポートセンター」に位置づけられます。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力しあうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティア同士の交流、内外へのそれぞれの活動の情報などを「わいわい通信」で発信してきましたが、今号でその役目を終えます。長い間、ご指導、ご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

「総合サポートセンター」とは

老いや病気、障がい、その他のために支援を必要とする人々の尊厳を守り、エンパワーし、地域の中でその人らしい豊かな生活をおくることができるようサポートすることを目的とする事業です。

グループ活動紹介

一緒に活動してくださる方を大募集しています !!!

グループ名	活動紹介・ひとこと	活動日時
高齢者のサポート		
わいわいダイルーム	食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。	毎週火曜 10:00～14:00
弓の木 歌の集い	灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者による歌の集い。	第3火曜 14:00～15:00
子どもと家族のサポート		
ちゃいやあらんど	子どもと家族のためのフリースペース。ハロウィンなどの季節イベント、つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひ参加してください。	第1・3水曜 11:00～15:00
野宿している人の支援		
夜回り準備会	野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話を伺っています。参加してみませんか？	第2・4土曜 18:00～22:00
当事者と仲間たちのスペース		
若年性認知症の人と仲間たちの集い カフェもぐもぐ	若年性認知症の人とその仲間たちが集い、学び、仕事づくりをめざしています。ぜひご参加ください。	第1土曜 10:30～15:00
地域交流スペース		
わいわい食事会 (茶話会)	新しい食事会(茶話会)を一緒につくりませんか。利用者とボランティアの垣根のないプログラム(食事づくりと交流の時)を企画しています。みんなが楽しめる時間となりますように。	第3・4金曜 10:30～12:00
ときどき 木曜カフェ	地域の人たちが気軽に立ち寄り、つながったりできるスペースを一緒につくりませんか。ゆっくりコーヒーや紅茶を飲みながら、こだわりの乾物や調味料など、買い物も楽しめます。リサイクルショップ「くるくる」も、ときどきオープン！	不定期、月2回 木曜 14:00～15:30

2020年度 神戸YWCA 会員活動の取り組み

岩切 幸子

2020年度の会員活動は、コロナではじまりコロナで終えようとしています。

私たちはいまだに経験したこともないコロナ危機に遭遇し、日常生活も一変しました。あたりまえの生活がいかに大事で、人はひとりでなく、お互い支え合い助け合って生きていると実感しました。地域福祉部の活動が地域にあって、どんな局面にあって、会員はじめ地域の方々とのつながりを深め、仲間と励まし助け合う心のよりどころになっていることも気づかされました。

宣言発出中でのとりくみ

新型コロナウイルス感染防止のために非常事態宣言が出された2020年4月から解除される5月末まで、ほとんどの会員活動は休まざるを得ませんでした。

しかしながらこんな中、会員同士で連絡をとりあったり、手紙で繋がったりして励まし合いました。マスク不足の訴えには、524枚の手づくりマスクが寄せられ、事業や活動に役立てることができました。夜回り準備会は休みなく活動し、ネットカフェを出される人や特別給付金支給の対応のため、市や県へ要請を行いました。わいわいダイルムでは、利用者さんの安否確認のため、電話や訪問活動で声をかけあいました。

解除後のとりくみ

緊急事態宣言が解かれ、6月頃からは、三密（密閉・密集・密接）をさけるな

どの新型コロナウイルス感染対策をとりながら少しずつ活動を再開していきました。対面活動と同時にZoomやLINEによるオンラインという新しいスタイルでつながることもできるようになり、一工夫した会議や活動などを進めてきました。ただ、活動の再開を願いつつも、いまだにできずにおられるところもあります。

創立101年以降をめざして

さて、2021年度は新しい会員組織をスタートさせます。会員活動の「部」を見直し、「平和と人権センター」（案）を、地域福祉活動は、「総合サポートセンター」の中で会員ボランティアとして力を発揮していく方向です。これらは、2021年3月の会員集会に提案していきます。

2020年は神戸YWCA創立100年でした。記念事業の「思いをつなぐ会」では、長年活動された会員に話を聞く機会を持ちました。記念募金の実施や記念ファイルの作成配布、2021年3月にはオンラインで記念式典を開催予定です。

この原稿を書いている間にも2度目のコロナの緊急事態宣言がだされ、さらに延長されています。先行き不透明ですが、私たちが大切にすること、できることは何かを問いつつ、これからも気持ちを寄せ合い希望を持ちつつ、行動してカタチにしていきたいと思います。

近況報告

わいわいデイルーム

新井 育子

2月25日「デイルーム」で、利用者Kさんから「来週からここもマスクをしないとあかんのと違うか?」と声をかけられ、はっとしたのを覚えています。その2日後、神戸市より新型コロナウイルス感染防止のため、「デイルーム」中止の要請がありました。3月からの参加を楽しみにされていた方をはじめ、8人の利用者さんのほとんどがお一人暮らしで、連絡を受けた皆さんは、驚きと不安でいっぱいだったと思います。

自粛期間中、私たちは週に一度の電話連絡、家への訪問で皆さんの様子を伺い、フレイル予防対策の体操の声かけ、脳トレプリントや脳トレゲーム（スタッフの手づくり）を配ったり、会員さん手づくりのマスクを配ったり等々…。少しでも不安を取り除き、おしゃべりができたらとの思いでした。その間利用者さんたちは、デイケアやデイサービスに行く人、毎日散歩をする人、マスクづくりに専念する人など、それぞれ頑張っておられました。中にはずっと家で過ごしている人もあり、一番心配でした。ボランティアも離れて暮らす家族に会いに行けず家で過ごす日々の人、利用者に配る脳トレグッズを作ってくれる人、コロナ禍でも仕事に行かざるをえない人、それぞれが「デイルーム」の再開を願っていました。

度々、事業休止期間が延長され、6月末

にやっと再開できましたが、感染防止のための消毒、換気、マスク、検温と、ハラハラドキドキの再開でした。時間も1回2時間と短く、密を避けるため2部屋に分かれて、食事・おやつは禁止、介護予防講座、歌も禁止でした。さまざまな制約の中でのスタートですが、利用者の元気なお顔を見ることができ、スタッフ一同本当にうれしかったです。それと同時に、コロナを恐れる以上に、皆さんにとってつながりや居場所が大事で必要なのだ実感しました。

10月には介護予防講座、音楽教室も再開しましたが、時間を間違われたり、歩いて来るのが大変になったり、4カ月の自粛生活の影響は多少なりとも感じました。

1月に入り、消毒、パーティーション、食事（お弁当）は壁に向かって無言で、という神戸市からの指導のもとでも利用者さんは喜んでくださっています。

今後どうなるのか不安はありますが、皆さんのつながりや居場所を大事に頑張っていこうとスタッフ一同思っています。



利用者さんの誕生月初めには、手づくりカードが贈られ、皆で「HAPPY BIRTHDAY」を歌って祝う。

弓の木歌の集い

橋本 静子

2020年1月から12月は、コロナ禍のもと、(活動場所である)市住側から何度か開会を見合わせるとの連絡をいただきましたが、遂に1回も開かれないうまま終わりました。年が明けてから新年の挨拶かたがた電話したところ、メンバーの皆様には変わらないとの事でした。でも、市住自治会のメンバーが代わり、今後歌の会を続行するか否かは今のところ未定とのことでした。

今回「わいわい通信30号」発行との事で、2002年の1号から残されている「弓の木歌の集い」の足跡を振り返ってみました。もともと、この集いは、高齢者(特に籠もりがちな男性)の親睦と活性化を目的に始められた会ですが、社会問題などで大いに会を盛り上げてくださった男性群、戦前の外地での生活を生き生きと語ってくださった女性群、今は亡き懐かしい皆様の面影と共に共有した貴重な時間を改めてかみしめました。当初から参加したYWCA側からの3人も当然、年を重ねながら今に到っていますが、その間ずっと市住側とは和気あいあいの中に続けられてきたことは希有な事だったのではないかと改めて感謝しています。

ちやいやあらんど

木村 文子

6月から学校や幼稚園が分散登校という形で再開した。親子のための「ちやいやあらんど」は、学校の行事も中止になったことで、参加者の安全を確保しながらの開催が難しく、また、分室の再開が7



弓の木歌の集い(2017.1当時)

*市住：灘区弓ノ木南市営住宅

月からということもあり、スタートが順調とは言えなかった。

24時間一緒に在宅させられるなんて、子どもが首も座っていない時期以来。そんな頃の思い出はつらかったお母さんも多いが、今回は学校の課題や3回の食事の支度などしなければならぬことがさらに増え、世のお母さんたちは追い込まれていた。

子ども同士のけんかは増え、やりたいことはできず、家事の数も量も多くなり、心配事も増えた。何より1日の中でひとりの時間、リフレッシュする時間を奪われていたのだ。

7月から手づくり布おもちゃを作る「ぬいぬい」、秋には「スクラップブック」を再開したが、皆で子どものようにしゃべいで再会を喜んだ。裁縫や工作をすることとおしゃべりできる喜びとで、参加者は弾けるような声と笑顔だった。

しかし、子どもを連れて出ることには抵抗を感じたり、新しい生活リズムを作っているなど休止期間の間に心身共に離れてしまった参加者もいた。「ちやいやあらんど」が活動を休止している間に新しい活動の場を見つけた方もいて、少しでも動いている流れに自ら乗っていくお母さんたちのアクティブさに置いていかれた

ようにも見えた。

12月になり、忙しさと感染者の増加を受けて、またもや活動は休止。今度は「ぬいぬい」と「スクラップブック」の子ども向けキットなどを作ったり、会えないでも感じてもらえる何かを模索している。我慢を強いられている生活が長いのは子どもも同じなので、子どもも大人と一緒に楽しめるキットが良いと思ったのだ。

LINEなどSNSで作品を見せ合えるようにして、それが交流になればとも考えている。会えなくてもつながることのできるツールを持っているので使わない手はない。長期戦覚悟で無理せず活路を見出したい。



開催したスクラップブックの作品（未完成）。
子どもの写真を可愛く飾って楽しんだり、会うことのできない祖父母に送ったりする方も。

夜回り準備会

梅澤 昌子

「夜回り準備会」では、コロナ禍のこの期間も、1回も休むことなく、月2回の定例の夜回り活動を実施。灘区、東灘区、および芦屋市で野宿をされている方々を訪問し、お話をうかがい、おにぎりやパン、コーヒー、マスクや衣類などをお届けし

ました。また、将来、分室が使えなくなった後も活動を継続することを決定、2021年度は新拠点探しなどの準備をスタートさせます。

コロナ感染拡大に伴い、失業や減収で生活に困窮する方が急増しています。野宿者や困窮者に寄り添い、格差や貧困の問題を訴える私たちの活動は今後、ますます大切になってくると考えています。「野宿したくない人が野宿しなくてすむように。野宿せざるを得ない人の人権が損なわれないように」という私たちの理念に共鳴してくださる方のお手伝いを募集しています。昼間に手伝っていただけることもたくさんあります。手を貸していただける方はぜひ、担当の梅澤まで気軽にご連絡ください。

2020年度の活動

【野宿をされている方々に寄り添って】

- ・夜回り：月2回
毎月第2・第4土曜
- ・昼回り：不定期 月2回程度
- ・路上生活者の居宅確保：年間実績（成約）1件
- ・生活保護申請同行：年間実績1件
- ・越年越冬活動「冬の家」への参加、食料配布：当事者数109人
- ・更生センター閉館中止の要請

【貧困・格差の問題を訴える】

- ・神戸ソーシャルブリッジとの協働プロジェクト実施
- ・灘中・灘高生の分室訪問
- ・更生援護相談所、更生センター見学
- ・特定給付金受給につき、神戸市への提案（旧・市長への手紙）
- ・ネットカフェ難民などへの公営住宅の提供につき、県と市の担当者へ要請
- ・神戸新聞紙上にてマスク・寄付金などの支援の呼びかけ
- ・「排除アート」写真収集

- ・情報カード作成開始
- ・勉強会、オンラインセミナー参加
- ・年次報告書発行



夜回りに持って行くもの：湯ポット、コーヒースティック、おにぎりやパン、ほかほかカイロ、(夏なら蚊取り線香)、下着、マスク等。

カフェもぐもぐ

宮田 泰子

コロナ感染拡大で次第に切迫する状況に、やむを得ず6月までの休会となりました。はがきを出したり電話を掛けたり、なんとか動き出そうと話し合っ準備、やっと7月再会にこぎ着けて喜びの日を迎えました。1年近くの緊張の月日は、私たち一人ひとりにとっても大きな日常の変化と気持ちの揺れた長い時間でした。とくに病気を抱えて孤立する大変さ、どうしようもない現実に翻弄される日常を聞き想像を超えることだと感じました。「カフェもぐもぐ」として何もできない無力感を抱えながらも、再開の半年は一人ひとりが互いを身近に感じ、グループでいることに励まされ、感謝しています。あれから「カフェもぐもぐ」では、「この1カ月どうしていた?」「何かこまったことは?」「楽しかったことは?」など、要するに安否確認という名目のおしゃべ

りが主な過ごし方になりました。思う存分自分のことを話す、相手の話も一生懸命聞くことを通してとてもよい時を過ごしているように感じています。

2021年1月の集まりでは、コロナ禍でのそれぞれの思いについて話し合いました。

カフェもぐもぐ井戸端会議

Nさん：これまで、いろいろと作って食べてたのが「もぐもぐ」の基本だったから、7月に再開できて、11月にカレーづくりができて、嬉しかった。今となっては、集まれるだけでも、しあわせやなあと思う。

Kさん：私は「もぐもぐ」の仲間になってまだ日が浅いけど、意義ある活動に参加できることに感謝している。2020年3月から「カフェもぐもぐ」が中止になった。でも、繋がっているのが楽しみ。コロナ禍でAさんが施設に入って、分室で久しぶりにAさんに会って、びっくり!でも、こうやって来てくれて、にこやかな顔を見られるだけでも…言葉にならない。この歳になって、「もぐもぐ」では自分も学んでいる。いろんなことを考える機会を与えられている。

Kさん：「もぐもぐ」は、ほっこりしたグループ。みんな一生懸命生きてきて、出会っている。このあつまりに感謝、幸せ。分室は居場所、つながり、こういうのが大事だし、そうだからこそ、この活動がある。

Sさん：去年1年は、Aさんの状態が悪くなって、病院に入って、かなりきつい1年だった。今、一番人とのつながりがなくなっている。出かける機会も減っている。人と繋がると安心できる。施設、ショートステイでは、孤立しがち。ここでは、話を聞いてもらって、僕自身も安心感がある。

Nさん：また、カレーづくりができると

いいね。Aさんにもできることをやってみようよ。

Sさん：このコロナ禍で考えたこと、僕は仕事を辞めてAさんと一緒に過ごそうと思っている。「生きているだけでマルもうけ！」危機的なことも多々あった。自転車で大げかもあった。

Nさん：死んでもいいという覚悟はいいが、死んではいけない。

Mさん：2月に義父が亡くなって一人暮らしになった。一人暮らしはいろいろ考える。エンディングノートらしきものを書いている。もしものときに誰かに知らせるという事をどうするかと考えるようになった。コロナ禍で、今のよい状態がいつまでも続くとは限らないと考えるようになった。

Kさん：年末に一人暮らしになって、人と会うのがとても大事と感じた。連絡ももらったり、メールももらったりしたことが嬉しかった。

Mさん：春になったら、外に出て行きたい。みんなで何かできるといいね。



輪投げを楽しむ。一投ごとに歓声や激励？コメントが飛び交う。

食事会

井上 みち子 三浦 啓子

「食事会」は、第3金曜日が「わいわい食事会」、第4金曜日は「わいわいキッチン」と名称も決まり、4月からスタートしたいと準備を進めていました。しかし、緊急事態宣言の発令で、開始を見送りました。5月、6月も活動中止。7月に「木曜カフェ」が再開したので、またもやの活動中止のお知らせハガキにカフェ再開を記したところ、暑い中久しぶりに分室に来てくださった高齢の利用者さんもおられ、感激しました。夏の間は、コロナ禍と猛暑で対応できないまま時間が過ぎました。

しかし、新しい生活様式が徐々に浸透してきて、新型コロナ感染防止の対処にも少し慣れ、私たちは10月からの活動を考え始めました。それで9月に、まず分室活動を昨春まで支えたボランティアさんに集まってもらい、10月からの活動についての希望や意見を聞くことにしました。当日は14人が集まり、半年ぶりに元気に再会できた時は、喜びが爆発しました。この困難な時期をどう過ごしていたのかをみなさんにお聞きしたところ、ほとんどの人が「不要不急の外出自粛」を”家ごもり”にせず、散歩したり、あちこちを片づけたり、まだまだ社会に役立つことがしたいと他団体での奉仕活動を始めた方があったり等、活発に行動されていて、感心しました。長年、生活の中にボランティア活動を組み入れ、自分らしい生活スタイルを築き上げてこられたみなさんだからこそ、この危機に対応できたのだと確信しました。

10月から12月までは茶話会を開催することとし、「わいわい茶話会」でつながり



YouTube「Happy Xmas (War Is Over)」を観る皆さん。「きれいねえ」「後でスマホで確かめよう」

ませんか」とチラシを作って参加を呼びかけました。その結果、12月のクリスマス会まで「新生活様式」に沿って5回開催、毎回10～16人が参加しました。

茶話会では、「今どきの流行りもの」コーナーで川辺比呂子さんがパソコンとプロジェクターを使って動画や写真でホットな話題を紹介。10月は韓国の人気音楽グループ「BTS」、11月は「キャッシュレス」、12月はジョン・レノン没後40年で、YouTubeの「Happy Xmas (War Is Over)」楽しく学んで、家人に誇らしげに話せたり、スマホで復習できたりするので好評だ。それに橋本静子さんのピアノ演奏、マスクをしての歌唱、衝立を挟んでお茶とお菓子、マスク着用でおしゃべりなど



久しぶりのおしゃべりは、衝立をはさんでも、楽しい(*^o^*)

盛りだくさんの内容でした。

参加者は、「案内をもらって、つながっているのが嬉しい」「元気で参加できることが何より」「距離を取っていても大勢で過ごす元気になれる」等の感想。集えるのは喜びです。

12月にコロナ感染の第3の大波がやって来て不安もありますが、今後も状況を見ながら対応し、連絡を取り合い、発信を続けていきたいと思います。それがコロナ禍から学んだことです。

生活支援わいわい

川辺 比呂子

「生活支援わいわい」は、2019年に生まれた「総合サポートセンター」構想のもと、地域福祉の一端を担うボランティアグループとして、2020年度より活動を開始する予定でした。「わいわいランチ」が終了し、利用者さんたちと関係が切れてしまうのは残念、配食でなくても何かお手伝いできたら嬉しいと思っていた分室ボランティア10人ほどがこの新しい活動に賛同し、参加してくれることになりました。

2020年度前半は活動準備をし、実際のサービス活動（試行）は9月か10月に始める予定でしたが、緊急事態宣言の発出で、準備の開始は6月になりました。

準備の最初は、グループの目的を確かにすることでした。目的によってグループの性格や、具体的な活動が変わってきます。話し合いの結果、「神戸YWCAの理念に基づき、お互いの支え合いで、気持ちの良い、心豊かな暮らしがおくれる地域づくりを目指し、生活支援サービスを行います」となりました。生活上の不自由がちょっとした支えで解消できない

か、少しの応援で心楽しい時間が持てるのではないか、そんな応援を頼み、頼まれるグループにしよう。メンバーはそういう地域づくりと一緒に目指し、共に働こうと考えました。私は、最初「地域づくりを目指す」というところでちょっと戸惑ったのですが、今はそこに大きな意味を見つけています。

その後は、組織の形、メンバーの心得、ルール、仕事の流れ、事務手続などたくさんの方のことを検討し、決めてきました。そこでは、「まごの手」を立ち上げてきたメンバー、現在「まごの手」を運営しているメンバーの経験が生かされました。リーフレット案ができたところで、12月8日、11人の参加を得て、予定メンバーに今までの経過と準備について、報告と意見交換の会をもちました。

意見交換会では、1月からサービス試行、3月までにメンバーの勉強会をもてたらいい、などの話をしましたが、年明けからのコロナ感染拡大、緊急事態宣言発出を受けて、今また立ち止まざるを得ない状況です。メンバーとの連絡を保ちつつ、時期を待ちたいと思います。

ときどき木曜カフェ

井上 みち子 宮田 泰子

2020年度「木曜カフェ」は、第2、第4木曜の13時30分～16時にオープン、カフェ担当と「くるくる」準備担当に分かれるなど、縮小して出発するはずだったが、コロナ感染拡大で緊急事態宣言が出され開けなかった。第一波が落ち着きを見せた6月下旬に5人が集まり、コロナ対策をして、カフェのみを14時～15時30分に開くことにした。

7、8月、フライヤーを作り、本館や再



レコードやCDを聴く会。それぞれの場所で話が弾む。心地よいBGM♪

開したばかりの「わいわいダイルーム」で配ったり、ご近所を持って行ったり、「食事会」のハガキに「木曜カフェ」再開を載せてもらったりした。

7月9日の初回は、正午すぎにシャッターを開けた。窓や扉、勝手口を開け、机や手すりはアルコール消毒をした。エアコンをつけるが、猛暑で効果が出ない。立看板にポスターを貼り、のぼりを立て、駐車スペースにある分室号車の前に置く。上り口近くの机、皆に見えるところでお茶の用意。7、8月はコーヒー・紅茶は紙コップで提供した。長机にプレーヤー、アンプ、スピーカー、CDラジカセを並べる。椅子やその他の机はランダムに配置。上り口に、消毒液と検温器、名簿を置いた。「求める会」の乾物や調味料も置く。衝立を6～8台組み立て、机の上に置く。これらを3、4人で手分けしておこない、小1時間で完成。

オープン時刻になると、ご近所のYさんが来られ、再開を喜び合った。「わいわい亭」利用者のSさん、「音楽セッション」のMさんがハガキを見て来られた。

9～11月は、奥の部屋で準備をし、食器でお茶を提供した。会員や元「わいわいランチ」ボランティアだった方々が来てくださったり、仕事がリモートになったからとやって来られたり、お気に入り

のCDやレコード持参でいらしたりで、毎回10人前後で賑わった。常連の方々の話題は、懐かしい音楽だけでなく、地域の様子や戦争体験語りへと広がった。時折、初めて立ち寄られた方もあった。

9月の2階倉庫の片付けを生かし、ていねいな生活をめざすリサイクルショップ「くるくる」を10月22、23日にオープン。久しぶりにメンバーが集結、立ち寄った方々は地域の方も含め、延べ20数人、アットホームな雰囲気でも額の売り上げがあった。

「音楽セッション」は8月から再開。ク

リスマスメドレーを練習し始めたが、バザーもクリスマス会もコロナで中止。でも、「木曜カフェ」でのミニ演奏会企画に救われる！

12月の「木曜カフェ」はクリスマス会を企画。「音楽セッション」メンバーの今年唯一のミニライブ、クリスマスの詩の朗読、みんなで賛美歌を歌う、などを10人で楽しんだ。

年が明けて、再び緊急事態宣言が出され1月は中止としたが、「木曜カフェ」は、誰もがのんびり、ゆったりできるつどいスペースでありたいと思う。



10.22、23 くるくる

冬の衣料、バッグや袋物、アクセサリを用意しました。久しぶりのオープン日に笑みがこぼれました。マスクをはずしてもらい記念撮影。

2020年ーこの1年の報告

被災者支援プロジェクト 福田 百

被災者支援プロジェクトでは、今年度は、セカンドハウス・プログラムの実施とともに、福島的生活者および関わりをもつ人とのお話会の中で直接思いを伺い、東日本大震災10年目を以ての活動の形を検討することを活動目標としていた。

会員から提供を受けた家屋（明石市内）を用いたセカンドハウス・プログラムでは、申込者は5家族16人であったが、新型コロナウイルスの影響を受けて2家族がキャンセル、2021年1月現在、利用は1家族2人となった。利用キャンセルのうち11家族は、夏、冬と2回も申し込んでくださったうえでの断念である。

2021年3月は、東日本大震災発災から丸10年となる。当初からセカンドハウスを提供してくださった西明石の大家さんが3月を機に活動終了することも受け、被災者支援プロジェクトでは、今後の活動の継続の有無、継続するならばその形はどのようにするかを検討する1年となった。検討の第一歩として、全4回にわたるZOOMによるお話会への参加の中で、保養プログラム実施団体、帰還困難区域住民、カーロふくしまの職員および福島YWCAメンバーなど、原発事故後の福島の生

活者に関わってきた人（あるいは当事者）の声を聞くこととした。

お話会を受け、被災者支援プロジェクトのメンバーからは、次のような感想が出された。「発災直後の『支援』が『共に生きる』活動に変化してきていることを思った」「忘れないという意思表示の大切さというメッセージを受け取った」「細く長く、継続してつながり続けていきたい」といった思いである。こうした思いのなか、被災者支援プロジェクトは「^{こうふく}神福のはしごプロジェクト」と名称を改め、1年ごとに活動を見直しながら、神戸と福島のつながりを持ち続けるための活動を継続していくことを決定した。震災10年以後も、活動を通して福島と繋がり続け、共に学び合う関係をさらに深めていきたい。



福島YWCA主催「嶋原良友さんズームお話会」の様子（場所：カーロふくしま）。神戸YWCAより6人参加。（左・福島YWCA渡辺園子さん、右・長泥地区前地区長・嶋原良友さん）



ありがとうございました!!

(2020年1月1日～12月31日)

地域福祉部へのご寄付など ご協力くださった方々 (順不同・敬称略)

*万が一お名前がもれている場合にはご一報いただけましたら幸いです。

青柳正	大島寛	齋木彰	中田洋子	藤岡直俊
青山恵子	岡本順恵	杉原伊津子	中道澄春	増田征子
東昌宏	岡本千鶴子	菅沼秀子	中村昭子	三浦啓子
新井育子	岡本正行	菅野弘	中山圭子	水池千代子
有馬京子	オガサワラトモコ	関家美都子	仲山由紀子	六渡和香子
石川智恵子	小倉覚	瀬戸昭	新原三恵子	安田朝美
石本賢司	カタヤマユキ	高森久江	西島明子	山内恭次
井上瑛子	加藤和子	高原佐美	西山秀樹	山本容子
井上みち子	川上和恵	立山真理	二宮百合子	山本雅規
イマヅヒロユキ	川飛妙子	田平正子	野々村耀	山本美和子
入江徹	川辺比呂子	玉岡昇治	早野美智子	ヨコノミキコ
岩崎滋	河村紀子	築山智津子	平芳幸子	米岡史之
大江雅子	木下スミ子	鶴崎祥子	飛田みえ子	吉田眞知子
大川妙子	黒木雅子	戸田公江	ヒライミナコ	吉田英三
オオクラヒトシ	小浦節子	中山	平木貴美子	匿名4件
大島幸子	後藤安子	中島紀子	藤枝健一	岩崎滋
コープこうべ	(株) ヒューマンマヤ		北のコタン	宮田洋子

神戸栄光教会社会委員会
食品公害を追放し安全な食べものを求める会

* 地域福祉部の活動をお支えいただきありがとうございました。
今後は、総合サポートセンターへご支援・ご協力をお願いいたします。

.....

【郵便振替】 01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA

【銀行口座】 三井住友銀行 三宮支店 普通 1015232
公益財団法人神戸YWCA

.....



発行：

神戸YWCA 地域福祉部

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10
tel. 078-231-6201 fax. 078-231-6692
e-mail: office@kobe.ywca.or.jp
www.kobe.ywca.or.jp

神戸YWCA 分室

〒651-0062 神戸市中央区坂口通 5-2-16
tel. & fax. 078-221-5111
e-mail: bunshitsu@kobe.ywca.or.jp

2020年、神戸YWCA創立100周年

YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
(Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。

